

# アユモドキ保全に対する 多方面からの「見直し要請」「意見」に亀岡市はどう応えるのか!

## 12の環境保護団体

団体名	要望書提出日等
日本魚類学会	H25.3.12 H25.5.29
(一社)日本生態学会	H25.3.12 H25.12.18
関西自然保全機構	H25.3.12
(公財)日本野鳥の会	H26.1.23
(一社)水生生物保全協会	H25.12.9
全国ブラックバス防除市民ネットワーク	H25.12.13
認定NPO法人生態工房	H25.12.14
手賀沼水生生物研究会	H25.12.15
岡山淡水魚研究会	H26.1.10
びわ湖サテライトエリア研究会	H26.1.11
淀川水系外来魚対策基金	H25.12.18
NPO秋田水生生物保全協会	H26.1.6

「スタジアム中止 亀岡市に意見書」  
日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会  
3回目の意見書

国の天然記念物アユモドキの生息に与える影響の調査が行われていないとして、都市計画決定の手続きを中止し、スタジアム計画を白紙に戻すよう求める意見書を提出。  
京都新聞 (平成 26年 2月 5日)

## 亀岡市

現在、京都府とともに「亀岡市都市計画公園および京都スタジアム(仮称)に係る環境保全専門家会議」を設置し、専門家の方々から、ご意見をお伺いする中で、都市計画公園内に共生ゾーン(サンクチュアリ)を設け、農業者に負担を強いることなく、持続可能な生息環境を創出し、人と自然の共生を図ろうとしているところです。  
アユモドキは、亀岡市の環境のシンボルであり、今後も、これまで以上に、地域一丸となって、環境保全に努めてまいりますので、関係者の皆さんの御支援と御協力をよろしくお願いたします。  
平成 26年 1月 17日 (要望書に対する回答)

### 亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会 保津自治会

府、亀岡スタジアム計画 地元自治会が推進要望  
予定地周辺に生息する国の天然記念物・アユモドキへの悪影響を専門家が指摘していることについて「無責任な議論が起こり、計画が進んでいない」と批判し、予定通りの計画推進や充実した共生ゾーン整備を求めている。  
京都新聞 (平成 25年 12月 17日)



## 環境大臣の意見

国内希少野生動植物種であるアユモドキ等の生息環境を保全するための環境保全措置が最善のものとなるよう、  
[1] 専門家会議の意見を実施計画に反映するとともに、反映状況を適切に公表すること、[2] 実施計画が策定されるまで駅北地区及びその周辺の自然環境の保全に努めること、[3] 事業実施による地下水等への影響に配慮すること、[4] 工事中及び事業後にモニタリングを実施するとともにその結果を適切に公表すること等を求めている。  
平成 26年 1月 21日

## 京都府

「亀岡市から、共生ゾーンを設けることによりアユモドキをはじめ生態系を保全することは可能であり、学識経験者や環境保護団体とも十分相談を行い、さらに地元環境団体の理解は得ているとの回答を得ており、亀岡市が責任を持って対応するものと認識している。」  
府議会委員会 (H25. 6月) での答弁

## 京都スタジアム(仮称)に係る 環境保全専門家委員会

亀岡の球技場 市公園計画は「拙速」  
アユモドキ保全専門家会議 批判相次ぐ  
京都府の球技専用スタジアム計画で、亀岡市の予定地周辺に生息する国の天然記念物アユモドキ保護を検討する環境保全専門家会議が 20日、京都市内であった。予定地一帯を来年 6月を目標に都市公園として都市計画決定するという市の方針に、委員から「人間の都合だけで拙速」と批判が相次いだ。京都新聞 (平成 25年 12月 21日)